

# 発語障害向け「ペーシングボード」

# 機能回復へ高い効果

脳卒中の後遺症、神経疾患などが原因で話すことに支障をきたした人向けに、新たなリハビリ器具が県内で広がっている。長方形の板を等間隔に区切った「ペーシングボード」と呼ばれる道具で、区切られた箇所を指でなぞりながら発声訓練する仕組み。言葉が明瞭になったという訓練結果が関係学会で報告され、コミュニケーション能力を高める道具として期待を集めている。

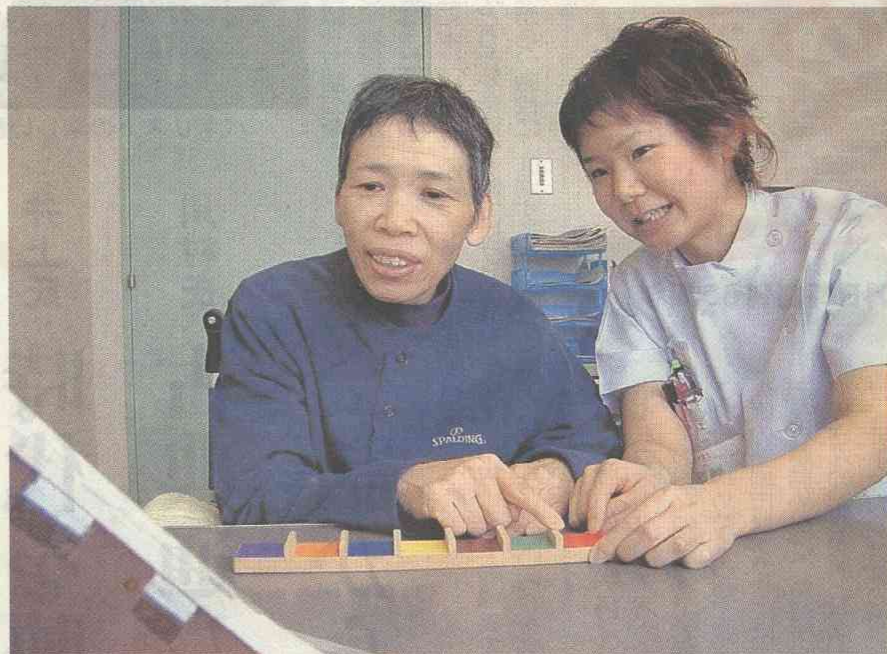
ペーシングボードは、総合病院などでボードを難病のパキンソン病に使った機能回復訓練を取組んで喉頭部、舌に麻痺が入れている。新潟市秋葉区のある人の機能回復を目的、葉区の下越病院は五年前に三十年前、米国で考案、三人の言語聴覚士がされた。市販のボードはボードを使ったりハビリ縦五枚、横二十九枚の板 援助を始めた。今も約二十人、升席のような仕切り 十人の患者が訓練中で、で七等分され、それぞれ 言語聴覚士の阿部尚子と色付けされている。家庭 ン（モ）は「短時間で言葉で作ることもできる。 が明瞭になる」と効果を

使用方は、まずの部分 説明する。を端から順番に指で触りながら、一言ずつ話す。症状の程度に応じて音節ごとに、または一語ごとに区切ることで、はっきりと聞き取れる言葉を話せるようになる。

県内では、新大医歯学

話せるようになり、「鹿

## 県内病院でも活用進む



ペーシングボードを使ってリハビリをする加藤芳江さん（左）と言語聴覚士の阿部尚子さん（新潟市秋葉区の下越病院）

## 短時間で言葉明瞭に

難病の多系統萎縮症を患い、ボードを使ったりハビリを始め、一年半に

児島に住む姉と電話で話している。同病では、普段小刻みにしか歩けない人が、階段の上り下りや床研究会」を設立、ボードが広く知られるようになった。欧米では一般的なリハビリ道具として使

市販ボードの取り扱いがインテルナ出版、ファクス03（5319）2440。ホームページアドレスはhttp://www.w.intern.co.jp/

新大医療福祉大の西尾正輝准教授（西）らが二〇〇二

県内で脳卒中を発症する人は年間約九千人、パキンソン病患者は約二千人とみられる。全国パキンソン病友の会の斎藤博会長（新潟市西区）は「社会とコミュニケーションを取る上で大切な道具。利用が広がってほしい」と期待を寄せ

われていたが、失語症のリハビリに主眼が置かれていた国内では当時、利用が一部に限られていた。

西尾准教授は「色付けされた箇所を触る視覚的な刺激と、板を触る動作が、言語器官に良い影響を与える」と説明する。阿部さんらの調査では、ボードで一定の訓練を積むと、ボードなしでも言葉の明瞭度が低下しなかったとの結果が出た。その内容は昨年、日本言語聴覚学会で発表された。

【主な材料】豚ロース肉、アサヒ、【作り方】身と肉の間を、軽くたゆみ、大きじゆに漬ける。1にサラダ熱し、漬けた肉に焼き色秒ほど強火弱めてさらその後裏返く③漬け汁を混ぜてライパンを汁を煮つめ出す④小口ツキを③に止める。

【メモ】280キロを控え、コ

ここ数年の大量飛散の見通し心配なら呼び掛け

を



マスクな

長年、花粉症の患者を診てきたアクティ大阪耳鼻咽喉科医院（大阪市）

アレルギー治療の専門医の診察を受けてみては「とアドバイスしている。花粉症は免疫活動の異常による。

福井大医学部耳鼻咽喉科の藤枝重治教授は「規

環境省は、花粉症

